

# 尾瀬ネットワーク通信



Vol. 22. No. 1 2019年5月

-----目次-----

「尾瀬の自然保護運動 50 年、そして新たな獣害の兆し」.....1  
 2019 年度通常総会.....3  
 特別講演より.....4-6  
 大江湿原・尾瀬沼積雪調査.....7  
 事務局だより.....8

## 『尾瀬の自然保護運動 50 年、 そして新たな獣害の兆し』

理事長 磯部 義孝

### 当会の生い立ち

尾瀬の自然を守る運動は、大清水から三平峠をかすめ沼山峠へ抜ける、「尾瀬縦貫自動車道」の建設反対を切っ掛けとして始まりました。1971 年に「尾瀬の自然を破壊から守る会」（平野長靖、母靖子、中島千代子の 3 人が発起人）が発足、同月には「尾瀬の自然を守る会」に名称を変更して道路建設阻止の活動が始まります。これは市民による自然保護運動の草分けとも言えるものです。

また「尾瀬の自然を守る会」は、ゴミの堆積問題、ハイカーのゴミの持ち帰り、尾瀬沼の取水問題、トイレ、生活排水の湿原域外排出、木道、登山道のルートの変更、尾瀬の保護管理の一元化など尾瀬を取り巻く多くの環境（破壊）問題に対して、環境庁はじめ地方公共団体やハイカーに向け数多くの提言や警鐘を鳴らし続けました。

その後、四半世紀の活動の歩みに一定の成果が得られたため、新設された「尾瀬保護財団」に今後の活動を委ね、惜しまれながら 1996 年 12 月に活動の幕を閉じました。翌 1997 年 3 月に（旧）「尾瀬の自

然を守る会」の有志らが、「尾瀬自然保護指導員」養成講座などの意志を引き継ぎ、新たに「尾瀬自然保護指導員ネットワーク」を立ち上げました。これが当会のルーツです。特定非営利法人（NPO）の法人格を取得するにあたり、誰もが参加入会できるような指導員の名称を省き「尾瀬自然保護ネットワーク」として現在に至っています。

### 尾瀬アカデミー「インタープリター養成講座」

活動する方々の育成に当たっては旧守る会の頃より、「尾瀬自然保護指導員養成講座」としてフィールド研修（2 泊 3 日）と宿泊先の座学をカリキュラムに組み、現在の「尾瀬アカデミー」とほとんど同じような形態で実施してきました。2012 年には尾瀬アカデミー「インタープリター



2019/0504-尾瀬沼積雪調査

養成講座」と名称を変更して、加えて受講者がより参加しやすくするために、フィールド研修を 2 回（前期の夏、後期の秋）に分け、1 泊 2 日の日程で実施しています。その結果として 100 名を超す研修修了者から多くの指導員が誕生しています。近年では若手指導員の活動参加が目立って多くなり、活動にも弾みがつき、尾瀬の虜になる新人指導員も誕生して

います。

### 保護・保全活動

携帯電話基地局の設置反対の署名活動にも積極的に動きました。この活動では、地元山小屋関係者との間で意思疎通が出来ず、いくつかのトラブルもありました。しかし反対運動の成果として、尾瀬の湿原内に物々しい大型アンテナが立たずに済みました。今では各小屋の軒先に小さなアンテナの設置で十分な対応ができています、この反対運動がなかったら少なくとも、尾瀬ヶ原地区に2ヶ所、尾瀬沼地区1ヶ所の計3ヶ所では、尾瀬には相応しくない人工物が建設され、尾瀬の景観を損なっていたことでしょう。

シカの食害も大きな問題です。シカの急増による食害は、尾瀬の植生にとって多くの被害を及ぼします。その回復には十年単位の年月が掛かるとともに、仮に緑化されても同じ植生に戻る保証もありません。

当会では、2000年から2009年にかけてシカの生息調査を行い、調査結果を冊子にまとめシカの食害に警鐘を鳴らしていました。尾瀬国立公園としてシカの捕獲は、2009年から始まりました。また尾瀬沼では(やっと)行政も尾瀬保護財団も動き出し、2014年度(平成26)からシカの防護柵(ネット)の設置を開始したところです。当ネットワークにも春期のシカ柵の設置と秋期の撤収作業の要請があり、数名の指導員が参加しています。

またシカ害と同じく、尾瀬の植生に多大な負の影響を与える「外来種(移入種)」の確認調査も行っています。外来種の繁殖は、もともと生息していた固有植物などの生息地を奪い、絶滅させてしまう恐れがあります。また第4次尾瀬学術調査では、研究者より外来種と在来種の遺伝子の交雑(遺伝子汚染)も報告されています。当会では(特別保護地区外ではありますが)外来種の除去作業などにも参加協力をしています。

温暖化の影響で懸念される少雪や雪解けの早まりにより、イノシシの尾瀬への侵入が心配されます。すでに会津地方では、シカ同様に増え続けるイノシシの被害が続出し、対応に苦慮しています。元来シ

カもイノシシも積雪地では生育できないと断定されていましたが、そうではないようです。

2013年発行の「尾瀬の自然保護35(群馬県)」には尾瀬ヶ原でイノシシの確認(死体)が報告されています。また最近では尾瀬沼周辺に設置されたシカ調査用のセンサーに、イノシシが撮影されていたことが尾瀬国立公園協議会で報告されています。

日光方面から雪解けとともに移動して尾瀬に侵入したシカは、秋に越冬地に戻ることがシカに装着したGPS首輪装置から明らかになっていますが、イノシシが、尾瀬に侵入や常在するようなことがあれば、被害はシカの比ではなく、さらに深刻な事態が起こると想定されます。

繁殖力ではシカの一夫多妻に対しイノシシは一夫一妻ですが、シカの場合は年一度の出産で一頭の子ども(双子はまれ)に対し、イノシシの場合は(大半は年1回の出産)3頭から5頭の子どもを産みます。出生から一年足らずで繁殖力が付き、繁殖力はシカよりも高いです。この動物が尾瀬に侵入したならばシカの食害どころか、尾瀬内に生息する大多数の植物、特に地下茎が食い荒らされます。またシカは人を襲うことはありませんが、イノシシは人にも向かってきます。まさに牙をむいて猪突猛進します。

かつて私は、シカ食害に対して地元関係者に訴えたことがあります。早急に対策を講じなければ大変なことになると、直に伝えましたが、その返事は「シカの食べるくらいはしれている」との気楽なものでした。それから20年が今のシカ対策の現状です。

すでに尾瀬の特別保護地区内でイノシシの目撃情報があるわけです。先手必勝の手を打たねば、シカの二の舞になりかねません。シカの食害対策の遅れが被害の拡大につながったことを教訓に、里山での駆除対策、狩猟方法、狩猟体制の再検討が必要と考えます。

私たちは尾瀬を守るためならば、微力ではありますが、今後も協力は惜しまず活動を続けていきます。

※大江湿原-尾瀬沼積雪調査の写真は、鍋山理事よりご提供いただきました。(2019年5月4日撮影)



## ■2019年度-（第16期）-通常総会

理事/事務局長 円谷光行

### ○ご 報 告

今年から開催時期を4月下旬となった通常総会は次のとおり。2018年度の活動報告・会計報告が承認され、2019年度活動計画（案）・予算（案）が可決されました。主な内容をご報告いたします。（敬称・役職名省略）

1. 日時：2019年4月21日（土）13：10～14：10
2. 場所：大宮ソニックシティビル/805会議室
3. 出席者：24名、委任状：67名（正会員数：103名）
4. 出席者氏名：磯部、伊藤（ア）、飯沼、伊藤（佳）、伊藤（広）、牛木、上原、大山、川、小鮎、坂本、佐藤（秀）、椎名、島崎、鈴木（誠）、鈴木（理）、須賀、菅野、円谷、刀、永島、仁村、初谷、松前、
5. 開会宣言：大山昌克

議長：磯部義孝 書記：円谷光行  
議事録署名人：上原健司、菅野文子

6. 理事長挨拶：磯部義孝

### 7. 議題

#### 第1号議案 2018年度活動報告

1. 事業活動報告：磯部義孝
2. 諸活動報告：磯部義孝・大山昌克

#### 第2号議案 2018年度会計報告

1. 2018年度会計報告：伊藤佳美
2. 2018年度会計監査報告 須賀邦雄（代表）

#### 第3号議案 2019年度活動計画

1. 入山指導：群馬側/小鮎 守
2. 入山指導：福島側/円谷光行（代理説明）
3. 調査/研究  
地球温暖化影響調査・外来植物調査・至仏山  
携帯トイレ調査アンケート：初谷博/小鮎守

#### 4. 尾瀬アカデミー2019

（インタープリター養成講座）：円谷光行

#### 第4号 議案2019年度予算案：伊藤佳美

※その他の事項：事務局長

- ・活動における「交通費等の計上」規約の第7項を「通常の宿泊費は一泊分を計上支給する」と追加

8. 閉会宣言：初谷 博

☆総会終了後、

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク初代事務局長  
椎名宏子氏による「特別講演」を開催

「尾瀬の保護活動から見えてきた山岳トイレ」

※ご講演内容は P4～P6 に掲載されています。

17：00～懇親会

### ■総会&懇親会スナップ



## < 特別講演 >

### ■ 尾瀬の保護活動から 見えて来た山岳トイレ 初代事務局長 椎名宏子



昭和六十年（1985年）に入り、尾瀬の入山者が増え、山の鼻のトイレが一時間待ちとなるなど、現地では処理が追いつかなくなり、内海先生から私に「各地の山岳トイレの実情を調べるように」との依頼がありました。

環境省を始め、各山小屋に電話で問い合わせをしたり、岳友が山行する際には、トイレの調査を依頼し、情報を収集しました。

当時の山岳地のトイレは、山小屋を閉める時「黄金祭り」と称して、谷に放流したり、浸透、埋め立てなどを行っているのが実状で



した。

その中で、白山の室堂だけが、夏に汲み取った物を、雪が降りソリが使えるようにな

ると、麓に降ろして処理をしている事がわかりました。また富士山の放流は「富士山の白い川」と呼ばれ世界自然遺産とならなかった事でも有名になりました。



< 富士山の白い川 >

山岳地のトイレ問題が提起された時、槍ヶ岳山荘では、世界のトイレを研究しつつ、日本ではどのような方法が適しているのかを模索していました。又、大菩薩丸川荘では、土壌に埋めたし尿が、一年経っても浄化しないことを問題視していました(図3参照)。

私は、このままでは日本の山岳地帯が汚れ、美味しい沢水も飲めなくなると、当時の環境省国立公園課長に訴え、日本トイレ協会（昭和60年設立）を紹介していただき、会員になりました。山岳地域のトイレ事情が知りたかったのですが、トイレ協会の活動は、学校や街の公共トイレが主な対象でした。ところが、会員になり三年目、大樺沢で沢水を飲んだハイカーが、北岳小屋で次々と下痢や腹痛を発症し、奥多摩・御前山避難小屋前の湧水そばに立った「煮沸して使用して下さい」との看板も報道され、一気に山岳トイレ問題が浮上しました。

その後、環境省、学術研究者、山小屋、トイレ業者、登山者らが日本トイレ協会に集結して、改善策を話し合い、平成9年（1997年）には、山のトイレ改善運動が発足、その2ヶ月後には、「山のトイレさわやか運動」と名称を変え、活動を始めました。

平成11年（1999年）国から総額一億円

の補助金を受け、大きな山小屋は次々とトイレの改善を行い、東京都は改善事業を『さわやか事業』と命名し、奥多摩のトイレを改善していきました。(注 1.2)

尾瀬では、昭和 62 年 (1987 年)、補助金が出る前から、各山小屋が合併浄化槽の設置を始めました。尾瀬沼と見晴の浄化水は、排水の環境基準には達していましたが、窒素とリンが含まれた富栄養化のため、植生の巨大化を招いてしまいました。それゆえに、浄化水であってもパイプラインを使用して、湿原の域外へ排出されることとなりました。なお山の鼻では、川上川に放流しています (図 6.7 参照)。

山小屋の立地条件により、処理方法は異なりますが、総じて、管理者のいない所では、トイレは作らない方が良いというのが、調査の結論です。

そこで、内海先生が当初より主張されていた「持って出る」という『持ち帰り携帯トイレ案』が最も適しているということになり、防災時用の携帯トイレを、個人用に小型



化し、凝固剤と消臭剤をシートの中に取り込み、幾度となく試作品を作り、改良改善を重

ね、『便袋』が出来ました。その後、長野県の高校生 100 人に使用体験をお願いし、その結果、唯一の問題は臭いであることが判明、このことが、特殊なチャック袋の開発につながります。

静岡県焼却炉工場に出向き、約 300 個の焼却実験を行い、データを収集し、約十年の研究改良の末、ようやく普及可能な状態に漕ぎつけました (図 5 参照)。チャック袋は大変な優れモノで、熱中症になった人が、チャック袋に沢水を入れ両腕に挟み、熱を下げたという報告もありました。

今では登山用のみならず、防災用、渋滞した車中、介護用など多方面で利用されています。

北海道利尻山は、御前山に続きこの携帯トイレ普及の先駆けの地です。昨年 (平成 30 年) は、北海道大雪山で、3ヶ所の環境省管理事務所、一市、九町村、九山岳団体、その他団体が一つとなり「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」を発表、今後の成果を大いに期待するところです。

携帯トイレ研究開発着手から現在まで、実に 30 年以上の年月を経て、ようやく内海先生の提唱された「外に持って出る」が実現されようとしています。



以上が、尾瀬の保護活動から見て来た、私の山岳環境保全の活動です。

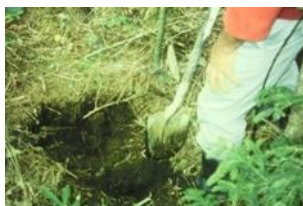
■主な山岳トイレ施策方式（注1）

条件	主な施策	備考
道路あり	バキュームカー（上高地など）	バキュームカーで搬出
電気あり 水あり	1. 合併浄化槽（尾瀬はパイプラインで湿原外に放流） 2. 循環式浄化槽（立山一の越）	2＝少量の水で循環できる
電気あり 水なし	1. 電気焼却式（新越乗越山荘&南極昭和基地） a) F A T法, b) S A T法（常念小屋） 2. 電気式コンポスト オガ屑（月山9合目小屋）、牡蠣ガラ（雲取山荘）、杉チップ（三条の湯）	
電気なし	1. T S S法（雲取山荘前公共トイレ） 2. 分別処理（濁沢ヒュッテ（図4）、白神）、3. 携帯トイレ	2＝尿は地下浸透させ便はヘリで搬出

■上記トイレ施設方式の注釈（注2）

電気焼却式	し尿を乾燥させ、一定の量になった時焼却
F A T法	し尿を濾過、抜気処理した後、処理水・トレンチを用いて土壌浸透処理
S T A法	微生物製剤を添加、抜気処理後、処理水・トレンチを用いて土壌浸透処理
電気式コンポスト	し尿を電気ヒーターで加温し、バイオチップと共にモーターで攪拌処理
T S S法	腐敗槽による嫌気処理をした後、土壌処理

（図3）大菩薩丸川荘し尿溶解状況検証



（図4）濁沢ヒュッテ便器



※便器の真ん中が網状になっている

（図5）焼却炉



（図6）尾瀬ヶ原パイプライン



（図7）尾瀬沼パイプライン



（編集者）貴重なお話に感謝いたします。講演内容のエッセンスを会報にご執筆いただくとともに、多くの写真、資料も併せてご提供いただきました。なお当会では、現在至仏山の携帯トイレ利用促進運動を実施しています。

## ■大江湿原-尾瀬沼積雪調査報告 (2019)

福島側担当理事 鍋山 智之



1. 調査日：5月4日（日）晴れ
2. 調査地点：大江湿原、尾瀬沼
3. 調査概要：

今年度最初の活動である積雪調査は参加者10名により行われました。午前8時20分、マイクロバス2台に分乗して尾瀬御池を出発。途中道沿いの雪は昨年より多く、眼下に広がるブナ平はまだ冬景色である。

晴天の中、沼山峠登山口8時45分出発。残雪の樹林帯を登り足元に注意を払いながら樹木の凍列・倒木や枝折れ・動物の死骸の有無の確認を行い大江湿原入口へ向かう。特に風雪等による影響は見られなかった。

残雪は山林・大江湿原とも約1.2m。小淵沢分岐点の標識は、雪で覆われて頭上部分は見えない状態。

今年は4月に入り尾瀬周辺地域で3回の雪が降り、特に雪解けが例年より遅いと御池ロッジの星睦夫支配人から説明を受けた。

山林の日の当たる(シャーベット状)雪の上には所々に2~3cmの黒い幼虫が微妙に動き、私たちの足を止めた。触ると自己防衛か、身体を丸くし動きを止める。幼虫名は解らず現在調べ中である。



残雪期でしか味わえない大江湿原を、例年通りショートカットして雪上をサ

クサクと歩き、夏・秋の湿原の情景を目に重ね合わせて散策しました。

結びに御池ロッジのご協力によりワゴン車2台の送迎をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。

## 4. 参加者 (10名)

磯部義孝、大庭和夫、鈴木隼人(新賛助会員)、須賀邦雄、菅野文子、高橋絹江、刀光夫、円谷光行、永島勲、鍋山智之。



※写真は、須賀邦雄氏、円谷光行氏よりもご提供いただきました。



**事務局だより**

●総会(4/21)には多くの方にご出席をいただきました。厚く御礼申し上げます。

総会の議事内容や会計報告、今年度の活動予定などは先日送付いたしましたので、ご覧ください。

・今後の活動予定(8月まで)です。ご参加をお待ちしています。

**【6月】**

群馬	1(土)	入山指導:外来種調査、自然観察会
福島	8(土) 9(日)	入山指導:バス添乗解説、外来種調査、自然観察会
群馬	29(土)	入山指導:外来種調査、携帯トイレ啓蒙、自然観察会

**【7月】**

群馬	6(土) 7(日)	尾瀬インタープリター養成講座(第1回群馬側) 宿泊/マルイ旅館
福島	13(土) 14(日)	尾瀬インタープリター養成講座(第1回福島側) 宿泊/燈小屋
福島	13(土) 14(日)	入山指導:バス添乗解説、外来種調査、【添乗解説研修】
群馬	27(土)	入山指導:笠ヶ岳植生調査、

**【8月】**

群馬	11(日)	山の日(群馬側):無料ガイド、外来種調査
福島	11(日)	山の日(福島側):無料ガイド、添乗解説、
群馬	31(土) 9/1(日)	特別研修(群馬):尾瀬を知る 大清水~尾瀬沼

●尾瀬のワンポイント情報

- 交通規制
  - 鳩待峠口は5/17(金)~7/28(日)までは、毎日交通規制(津奈木→鳩待峠 3.5 Km)
  - 御池→沼山峠登山口間(9.6 Km)のバス運行開始は、5月中旬予定
- 至仏山登山道は、7/1より解除(5/7-6/30 閉鎖中)
- ビジターセンター  
山の鼻→5/14 開館 尾瀬沼→5/18 開館
- 吊り橋=ヨッピー吊り橋 5/17 開通(予定)

※2018~2019年冬季の尾瀬沼の積雪は4月3日に記録した266cmが最大積雪深になります。過去10年間では平年並みの積雪ですが、4月に入り大雪があったため消雪は5月下旬と思われます。(5/10現在尾瀬沼 99cm、鳩待峠 66cm)

**NPO法人  
尾瀬自然保護ネットワーク  
Vol.22. No.1 (2019年5月25日)**

発行人:磯部義孝  
編集担当:大山昌克  
Web担当:鈴木誠一  
■本部事務所(事務局)  
〒969-0404福島県岩瀬郡鏡石町旭町19円谷様方  
電話/FAX0248-94-5003  
info@oze-net.com<info@oze-net.com>  
■群馬支部  
〒371-0846前橋市元総社町2-21-12小鮎様方  
電話/027-251-1089  
<http://www.oze-net.com/>